

山岳トイレ技術分野の 進捗状況及び今後の予定について

1. 平成 17 年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ (WG) 開催状況等

平成 17 年 5 月 24 日 ~ 6 月 3 日 実証運営機関の公募
10 月 24 日 第 1 回目の検討会を開催

(WG 検討員名簿は資料 1 - 3 - 2 参照)

(2) 実証機関における実証試験の進捗状況等

長野県(16 年度から継続)

実証対象技術：生物(好気性)・土壌処理方式
実証試験完了。

静岡県(16 年度から継続)

実証対象技術：生物処理方式(かき殻を利用した浄化循環式トイレ)
実証試験完了。

神奈川県(16 年度から継続)

実証対象技術：土壌処理方式
実証試験完了。

富山県(16 年度から継続)

実証対象技術：コンポスト処理方式
実証試験完了。

他 2 技術(富山県：土壌処理方式、山の E C H O：物理化学処理方式)については、
16 年度に実証済。

2. 今後の予定

12 月 6 日 第 2 回目の検討会を開催予定

・実証試験結果の検討等

試験要領改訂後、実証機関の公募を行う予定。

3. 手数料体制の検討状況

実証試験の効率化に向けた小委員会での検討結果により、以下の項目について具体
化しつつ実証試験要領を改訂中。

申請資料の充実

試験場所の条件緩和

試験期間の見直し

室内環境計測の簡素化
分析方法の一部簡素化
試料採取回数の見直し
越冬試験の簡素化

4. その他

山岳トイレWGの課題及び検討事項

(1) 実証運営機関の役割拡大

実証申請者が実証運営機関に、実証試験を直接申し込むことができるようにする。
また、場合によっては、実証運営機関が自ら実証試験を行うことができるようにする。

実証済の装置を一部改造して再実証する場合等、簡易に試験が実施できるものは、実証運営機関に直接申請することが可能になると、事業の効率化を図ることができる。

実証ニーズがあるにもかかわらず実証機関の応募がない場合等にも対応できる。

(2) 追加の実証試験等簡易試験の検討

実証済装置が、数年後にもその性能を維持しているかどうかを追加で実証する試験を検討するべき。

ユーザー側が装置を検討する際、本実証試験の実証データだけでなく、数年後にも追加実証することにより、装置の信頼性を見極めることができる。

平成 17 年度環境技術実証モデル事業検討会
山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ 検討員名簿

- 柏原 一正 (有)鹿島槍観光開発(冷池山荘、種池山荘、新越乗越山荘)
桜井 敏郎 三井造船(株) 環境・プラント事業本部長付
鈴木 富雄 長野県環境保全研究所主任研究員
船水 尚行 北海道大学大学院工学研究科教授
森 武昭 神奈川工科大学電気電子工学科教授 <座長>
吉田 孝男 N P O 環境資源保全研究会代表
渡辺 孝雄 (財)日本環境整備教育センター調査研究部主幹

(50音順、敬称略)